

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	FLOW岡寺		
○保護者評価実施期間	2026年2月10日		～ 2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	63名	(回答者数) 48名
○従業者評価実施期間	2026年2月10日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士や保育士が在籍し、子どもの理解に基づく専門的な支援体制を提供している。	作業療法士や保育士が在籍し、学校生活や日常生活に反映できるように、専門的な視点を活かした支援の充実を行っている。アセスメントを通して、子どもの特性や発達段階を十分に理解し、職員間で共有し、一人ひとりにあった個別療育および学校生活に対応していけるような集団療育を提供している。	支援者それぞれの専門的な視点を活かし、定期的なケース会議や情報共有をもとにした検討会を設け、支援内容の立案や見直しを継続的に行っていく。
2	保護者やお子さんの気持ちやニーズに寄り添った共感的な支援。	保護者の方と療育の際のFBの時間を大切にし、お子さんの最近の様子や学校生活での出来事などを具体的に何うとともに、事業所での様子を共有する機会を設けている。また、支援者間でも日々の情報共有を行い、お子さんの状況や変化を踏まえながら、一貫性のある支援が行えるように努めている。	保護者の方との情報共有を引き続き大切にしなが、学校での様子が家庭で生活状況も踏まえたより丁寧な情報共有に努めていく。また、必要に応じて学校等の関係機関とも連携を図り、お子さんが様々な生活場面で安心して過ごせるよう支援の充実を図っていく。
3	お子さんが安心感をもって「たのしい」「また来たい」と実感していただける支援を提供している。	お子さんが安心感をもって来所を楽しみにして下さる環境づくりに努めている。お子さんのやりたい活動に寄り添いながら、主体的に活動に取り組む機会や肯定的な関わりを意識した支援を提供している。	お子さん一人ひとりの興味関心や発達段階に応じた活動を取り入れながら、放課後の時間の中で主体的に取り組める機会を大切にいくとともに、成功体験や肯定的な関わりを積み重ねることで、自己肯定感の向上や社会性の育ちにつながる支援を継続していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会が少ない。	地域とのつながりを意識した活動や交流の場の設定が十分に図られていない点が課題である。	地域との交流の機会を設け、可能な範囲で交流活動の実施を検討していく。また、連携しやすい関係づくりの構築として、相談支援事業所とより連携していけるよう工夫していく。加えて、地域で生活しているお子さんが多いことから、地域の特徴や環境について理解を深める機会を設け、地域生活を意識した支援につなげていく。
2	家族が参加できる研修会や情報共有の場の開催が十分とは言えない。	家族が参加できる研修会や情報共有の場の開催は回数に限られていた。また、家族やきょうだいで参加できるイベントの企画も実施回数や、認知・周知の手段が不十分であった。	家族で参加できる研修会や交流会を年間計画に位置付けるなど工夫し、計画的に実施していく。また、イベントの開催目的や内容を明確にし案内方法を工夫することで、参加しやすい体制を整えていく。
3	事業所と学校等の関係機関との連携の機会が少ない。	保護者による送迎や保護者同伴での療育を実施しているため、事業所から学校へ直接連絡を取る機会が少なく、学校との情報共有の機会が限られている。	学校行事や学校生活の様子について保護者からの情報共有を丁寧に伺い、支援者間で共有する体制を継続していく。また、必要に応じて学校等の関係機関とも連携を図り、情報共有の機会を設けることで、学校生活と放課後の支援がつながるよう努めていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 FLOW岡寺

公表日 2026年3月6日

利用児童数 63名

回収数 48名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	47	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	45	2		1	先生がコロナ変わる時があるけど、どうしてなのか理由を説明して欲しい。	支援者の業務やシフトの関係上、担当が変更となる場合がございます。変更点がある場合は、事前にお伝えするよう職員間で連携を図っていきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	44	3		1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	47	1				
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	44	3		1	こどもの要望を取り入れながら支援計画に沿った活動を行っていただいているので、子ども自身が「させられている」という感覚がなく、楽しく活動できています。	各専門職の視点を合わせながら、一人ひとりのニーズに沿った活動の提供を行っております。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	45	2		1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	46			2		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	43	2		3		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	44	2		2		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	43	2		3	先生の道具や空間の使い方の発想が毎回工夫されていてとてもおもしろいので、こどもも親も楽しんでいます。	支援者間でプログラムについて専門的な視点を取り入れながらお子さんに提供できるよう、工夫して提供している。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	13	4	13	18		
保 護 者 へ の	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	47	1			一部、独自のアプリの使い方の説明が不足。	アプリの説明をより変わりやすく、簡潔に行えるよう工夫していく。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	47	1				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	29	4	3	12		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	46	1		1	いつも活動前に健康状態を気にかけてくれていますし、活動中なども、ちょっとした会話からくみとろうとしてみてください。	保護者の方やお子さんの様子について、来所された際にお聞きし、把握しながら支援が行えるように努めている。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	40	2	2	4	祖母に連れてってもらっているため、あまり分かりません。	一緒に来所されていない保護者の方にも、お子さんの療育での様子やお子さんについての情報共有、相談・助言の機会を設けられるよう、伝達手段などの工夫を行っていく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	47		1			

説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17	6	7	18		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	37	1		10		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	44	2		2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	42	1		5		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	44	1		3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	41	1		6		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	35	1		12		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	43	2		3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	41	2		5		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	46	2			先生方が自分を受け入れてくれている、という安心感があるように思います。	お子さんと支援者の信頼関係を大切に、お子さんにとって安心して来所し、活動を楽しんでいただけるよう努めています。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	43	4		1	毎回、前日からとても楽しみにしています。学校の先生にも、楽しいということをよく話しているようです。日によって行きたい行きたくないが変わるが、FLOWさんが大好きです。	「たのしい」「いきたい」と思っていただけ事業所を引き続き継続していくとともに、ニーズに沿いながらよりお子さんにとってやってみようと思っていたいただける課題設定を心掛けていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	46	2			先生方の手厚い支援により、こどもが楽しく身体を動かすことが出来ていますし、親も小さなことでも相談できる（どんなことでも相談してもいいんだと思わせてくれる）場所があることで、安心出来ています。	各専門職の強みを活かしつつ、お子さんや保護者の方にニーズに沿った支援提供を引き続き行っています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年3月31日				
FLOW岡寺						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		活動に応じて、部屋の使い方や定員数を設定している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		必要に応じてサポートできる配置体制を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		活動内容に応じて、空間の調節や遊具などの環境設置を行い、個々のニーズに沿った環境設定づくりを行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		活動終了ごとに清掃を行い、室内の環境を整えている。	ほこりが溜まりやすい場所の清掃、遊具を使用する際の周辺の安全確認を常に行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		活動内容に合わせて、利用者のニーズに沿える環境の選択が出来るようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	2	支援内容を職員間で共有し、目標設定や振り返りの機会がある。	事業所全体での目標設定や意見の共有が行いやすい体制を図っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		結果をもとに、保護者の意見や思いを傾聴し、職員間で対応策について検討する機会を設けている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2	事業所内でのミーティングや上司との面談の機会を定期的に設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		9	第三者評価は実施していない。	外部講師などの意見をもとに、よりよい支援・運営に向けて検討し改善につとめている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		外部への研修の補助制度があることや社内での研修を定期的に開催し、支援の向上を図っている。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	1	支援の5領域を包括的に捉え、保護者に公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		保護者の方、お子さんのニーズをアセスメントし、ニーズの背景や評価を踏まえて、個別支援計画書を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	1	児発管だけでなく、担当の支援者が共通の理解を持ったうえで、作成し保護者の方と共有を行っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		支援者間で計画書を共有できる体制を図りながら、各領域の専門職が計画書に沿った支援を行えるようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2	面談や療育の中で質問紙を用いて、客観的に評価する機会を設けている。また、集団療育や個別療育の時間で、専門的な視点をもって観察・評価を行っている。	質問紙の評価の方法や各個人の評価・観察について、より事業所内で議論する機会を設けていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		支援のガイドラインに沿って、お子さんのニーズに合わせた支援計画の立案・実施が行えるようにしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	2	個別療育・集団療育それぞれの支援の支援を組み合わせながらプログラムの立案を工夫している。	より専門職の強みを活かしたプログラムの立案が行えるよう、事業所内で話し合いの時間を設ける。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	1	お子さんに合わせて、活動内容を変えたり、環境設定や支援方法に変化を持たせられるよう工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		お子さんの様子や保護者の方のニーズに合わせてながら、集団療育・個別療育を選択できる環境にしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	3	朝礼や終礼での情報共有を行い支援者間で一日のスケジュールについて共有を行っている。	支援者間での情報共有がよりスムーズに行えるよう、記録の残し方などを工夫していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	療育終了後に担当間で振り返り、次の支援につなげていけるよう工夫している。	職員間で積極的に振り返りが行いやすい環境設定を行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		各療育、必ず支援記録を残すようにしている。また、支援記録だけでなく、評価、検証を交えて記録として残せるように工夫している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		定期的な保護者とのモニタリングの機会を実施し、計画書の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9		ガイドラインに沿った計画書を立案し、支援を行っている。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		お子さんのやりたい遊び・活動に支援者が寄り添い自己決定できる環境を意識している。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	1	相談支援員と連携を図りながら、お子さんや保護者の方の情報共有を実施している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	2	市町村と必要に応じて連携を図り、見学や相談の機会を実施している。	積極的に地域の関係機関との協力体制を整えていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	1	学校行事などの直接的な情報共有は行っており、保護者の方を介して共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	3	保護者の意向に応じて、情報提供を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	3	現在、そのようなケースはないですが、必要性が生じた際は保護者の同意を得ながら必要な情報提供を行います。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	3	外部の専門家を含めて、様々なスーパーバイズや助言を受ける機会を設けている。	地域との連携をより図れる体制を整えていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	6	直接的な関わりの場は少ないが、野外活動やイベントなどを通して、地域の方と関わる機会を提供している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	4		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		療育終了後に保護者の方とFBを行い、お子さんの現状や課題について共有できるようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		日々の支援の中で、個々の家族に応じた説明・提案・助言を行っている。また、HPなどで情報提供を行っている。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		面談・契約の際に事業所をご利用いただく際の案内を冊子を通して行い、丁寧な説明をこころがけている。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		保護者の方やお子さんの意向を聞き取りながら、支援の5領域を含む計画書を作成し、総合的な支援が行えるよう工夫している。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		計画書の説明の際は必ず提示し、具体的に説明しながら相互が無いか確認している。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		日々のFBや家族支援加算などの時間を設定しながら、相談・支援できる時間を設けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	7	2	集団療育などの時間を通して、保護者同士が交流できる場を設けることができるようこころがけている。また、地域における父母の会の活動を支援している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		相談や申し入れに対しては、窓口を設置している。また、早急に対応が必要な場合は対応できる支援体制を整えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		公式LINE、Instagram、HPなどを活用し、療育内容やお知らせを発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		事業所内で、個人情報にあたる範囲の共有を徹底し、管理とともに、必要な場合は保護者の同意を必ず得るようにしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		お子さんと保護者の方と共通理解が持って支援を行っていきけるよう、お子さんに合わせた視覚情報の提示（イラスト・文字）、声掛けを行えるよう工夫している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	1	地域の方が参加できるイベント・行事を開催している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		事業所内で各委員会を設置し、マニュアルを作成するとともに定期的な訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		災害に備えBCPを作成や備蓄品を準備して対策を行っている。	委員会を中心とし、どの支援者でも対応できるよう支援者間で共有していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		保護者の方と面談の際や療育開始時に状況を確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		保護者の方と面談時の確認事項として必ず聞き取るようにしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		定期的な遊具点検や事業所内の環境設定を見直し、安全に支援を行える体制作りを行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		家族の方との連絡先の確認や、災害時に周辺の避難場所の確認、避難の掲示を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		毎日ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた対策を検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		委員会を設定し、委員会を中心に事業所外部での研修に参加する機会や、事業所内での情報共有の機会を設けて対応している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		身体拘束について事業所内で共通認識を持ち、必要に応じて計画書に記載している。		